



さんじょう

「分からない」「教えて」と言える学校をめざして

校長 在家正行

6年生の道徳の授業を参観しました。
先生が子供たちに問いました。
「皆さんは仕事をしているとき、どんな気持ちで仕事をしていますか。」
子供たちは、答えます。
楽しいときもある。早く終わらせよう。
面倒。つらい。大変……。
私は、先生と子供たちのやり取りを見て、
（いい学級だなあ。いい授業だなあ。）と思いました。子供たちの言葉や姿に、先生や友達と本音で語り合っている空気を感じたからです。

この後、子供たちは、「世界がおどろく七分間清掃」という教材を使って、新幹線の清掃員の仕事の様子や工夫を知り、働いている人たちの思いなどを考え、今後の自分の生活の仕方について考えていきました。

自分の本音を述べたり、分からないでいること、出来ていないこと、満足できていないことなどありのままの姿をさらけ出すことができる場合は、なかなかないものです。

その人の本当の姿を見せられる場合は、その人にとって安全で安心な場であることが必要です。先生と子供たち、子供たち同士が信頼し合っている教室になっていることが必要です。

今、三条小学校では、子供たちや先生方と世界一の学校をつくろうと、次のような教室（学校）づくりに取り組んでいます。

- 「分からない」と言っても馬鹿にされない、周りの子供たちも馬鹿にしない教室（学校）
- 「教えてちょうだい」「助けてちょうだい」と言えば、教えたり助けたりする教室（学校）
- 友達や先生の思いや本音を真剣に聴き合い、分かり合おうとする教室（学校）

私は、授業を参観した後、どうしても子供たちや先生に感想が述べたくなり、こう言いました。「皆さんの学ぶ姿、先生の授業をする姿、素晴らしかった。全国レベルです。感動しました。ありがとう。」

三条小学校の子供たちのますますの成長が楽しみです。



体全体で聴こうとする子供たちと先生



先生の言葉に真剣に耳を傾ける子供たち

学校は 人間がよくなるところ

子供も 教師も 保護者も 地域の皆さんも
学校は、行けば(関われば) 幸せになるところです

ここに立つことで 地域の役に立つのではないかと 思って

八戸西高等学校近くの信号のない横断歩道。道路の整備、学区に転入していらっしゃる方の増加もあり、朝の通勤時間の交通量は少なくありません。

交通安全協会上長支部副支部長の上野謙吉さんは、毎朝、ここに立ち、子供たちが安全に横断できるように見守りをしてくださっています。

上野さんは、おっしゃいます。「私が、ここに立つことで、地域の役に立つのではないかと 思って」

子供たちの安全・安心な学校生活は、地域の方の御支援で保障されています。上野さんはじめ交通安全に御尽力くださっている関係機関の皆様、本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします。



上長老人クラブから手縫い雑巾の寄贈



上長老人クラブ様から手縫いの雑巾を寄贈いただきました。老人クラブの皆さんが一針一針手で縫い上げた雑巾を、孫・ひ孫の年の子供たちが小さな手で持ち、ごしごしと学校を磨く。子供たちは、手縫いの雑巾から伝わる人の温みを自らの手で直接感じ取っていることでしょう。雑巾一枚が、子供の心を育て、学校を磨いてくれます。皆様、ありがとうございます。

P T A 早朝環境整備作業

5月16日(日)。午前7時から環境整備作業が行われました。22日(土)に予定されている運動会に向けて学校をきれいにしようと、保護者、教職員のほか、地域の方や子供も含めておよそ500人で環境整備を行いました。私は、初めの挨拶で「一つ石を拾うごと、一つかみ草を取るごとに、学校がよくなります。よろしくお願ひします」と述べました。大人でなければ使えない草刈り機、せん定ばさみ、トリマー、パッカー車なども動かしていただき、大変助かりました。協働すること1時間。伸びた草や葉がなくなった校地には、気持ちのよい風が吹いていました。今日も子供たちは、皆様と力を合わせてきれいにした学校で、運動会の練習をがんばっています。皆様、ありがとうございます。22日の運動会もよろしくお願ひします。

